

## 第5回図書館基本計画策定委員会 議事要録

日 時 平成30年8月2日(火) 16時30分開会 19時15分閉会

場 所 武蔵野プレイス スペースC(別途、プレイス館内見学)

出席者 委員9名

船崎委員長、松山委員長職務代理、赤羽委員、大津委員、岡本委員、桂委員、金子委員、北本委員、福島委員

事務局12名

鎌田図書館長、目澤武蔵野プレイス副館長

加藤課長補佐、前田課長補佐、盛田プレイス課長補佐、森本課長補佐、佐々木主事、須藤主事、岩崎主任、西田主任

山名様、高橋様(文化科学研究所)

- 内 容
- 1 武蔵野プレイス施設、事業の実施状況について
  - 2 議事
    - (1) 前回議事録の確認について(資料1)
    - (2) 計画構成案について(資料2)
    - (3) 計画の将来像、基本方針について(資料3)
    - (4) 将来像を実現するための管理運営形態について
    - (5) シンポジウムについて(資料4)
  - 3 その他

配布資料 次第

第4回図書館基本計画策定委員会 議事要録(資料1)

武蔵野市図書館基本計画構成(案)(資料2)

計画の将来像・基本方針について(資料3)

武蔵野市図書館基本計画改定シンポジウムについて(案)(資料4)

武蔵野プレイス施設・事業の実施状況について

平成29年度 武蔵野プレイス年報

武蔵野プレイスパンフレット

### 【事務局】

定刻となったので開会する。

会議冒頭に武蔵野プレイスの館内見学を実施した。続けて、武蔵野プレイスの事業実施状況について説明があった。

## ★1. 武蔵野プレイス施設、事業の実施状況について

### 【プレイス副館長】

「武蔵野プレイス 施設・事業の実施状況について」を使ってご説明する。

#### ・武蔵野プレイス来館者の推移

平成 23 年のオープン以来、継続して大勢の方に来ていただいている。平成 29 年度の来館者数は 28 年度とほぼ同じ 195 万人なのでこの程度が最大なのか、今後更に増加するのか。いずれにしても、当初想定は 80 万人だったので、想定以上の来館者により課題が発生している面もある。

#### ・武蔵野プレイス来館者の属性

年齢層は 10 代～70 才以上と幅広い。見学いただいたように、地下 2 階などは 10 代の利用者が多い。また、ビジネスパーソンや 30～50 代も多く、これはプレイスのひとつの成果と考える。

居住地別には、6 割以上が市外の居住者で、三鷹市、小金井市が多い。

利用場所は、やはり地下 2 階から 2 階までの図書館機能部分の利用者が多くなっている。利用頻度は“月に数回”というリピーターが多く、有り難いと思う。

#### ・武蔵野プレイス年間主管事業数

「武蔵野地域五大学共同教養講座」は地域の大学との連携で実施している。「プレイス・アート・プロジェクト」は、プレイスの 4 機能を織り交ぜて行う「プレイス・フェスタ」という事業でのイベントでもある。今年もこの 7 月にフェスタを実施し、大勢の来館者があった。大学や民間企業との連携事業が多く、これもプレイスの成果のひとつと思う。

#### ・武蔵野プレイスへの評価

直近でも「日本建築学会賞」「日本ファシリティマネジメント大賞」と 2 つの大きな賞をいただいた。建築学会賞の受賞理由に「静かな場所とざわついた場所とのグラデーション～」「限界性」等と記載されているが、まさに静かな場所とざわついた場所、異質なものと多様なもの、何でこんなところにこんなものがあるのか、でも全体として見ると案外まとまっているというプレイスの雰囲気が魅力なのかなと思っている。

現在も外部からの視察は年 70 件、メディアの掲載も 14 件ある。

#### ・武蔵野プレイスのコスト

平成 23～29 年度まで、歳出は年間約 5 億円程度。多いとも言われることもあるし、これだけの施設をたったこれだけの予算でやっているのか、という見方をされることもある。人材とその基盤である財源は、今後の図書館を考えるにあたり大切なテーマの一つになるかと思う。

・公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団の概要、組織、取組み

事業団は、平成元年に体育館を運営管理するために発足した。行政としてある程度柔軟性をもった施設運営ができないかという回答のひとつでもあり、当時としては先進的な取り組みであったと思う。

事業団の組織としては、評議員会・理事会があり、その下に「本部事務局」（管理部門）、「体育施設事業部」、「武蔵野プレイス事業部」がある。プレイスでは71名が働いているが、図書館機能だけに限定すると嘱託と正職員とを合わせて44名である。

事業団の取組では、平成27～31年度を対象とした「公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団中期計画」を策定し、それに基づいて事業を推進している。外部の評価機関からは、一般に中期計画を定めている組織は少ない中で、しっかりしているという評価をいただいた。

この計画について。「内部統制」では、各施設の特性や法律の変遷などを踏まえ、規程・ルール・基準等について規程整備委員会を開催し見直しを行っている。「危機管理体制」では、BCPの策定、災害時の行動などについて定めている。「人材育成」としては、方針を立てて研修を実施している。図書館業務を拡大したので司書の育成も今後ますます重要になると認識している。「事業評価」は、プレイスには4つの機能があるので、それぞれの事業について目的、効果などを検討し、実施後に振り返りも行なっている。

「施設管理」については、プレイスの建物はまだ比較的新しいので大規模修繕等は発生していないが、特徴的な形状の建造物なので予防的な修繕・改修にも手を打っていく。もちろん法定点検を含め日々の点検もきちんと行っている。

**【事務局】**

何か質問があれば。

**【委員】**

プレイス事業部の「生涯学習支援係」は、プレイスの4つの機能のうち、図書館機能以外の3つ機能の職員が所属していると考えてよいか。

**【プレイス副館長】**

仰せのとおりである。

**【委員】**

副館長はこの図の中ではどこにあたるか。

**【プレイス副館長】**

プレイス管理課の課長2名のうち1名にあたる。

**【委員】**

大学や民間企業との連携について、具体的な内容を聞きたい。

**【プレイス副館長】**

例えば、「③企業、研究機関等との連携事業」では、中近東文化センターとの連携事業や、JRと一橋大学との連携事業「武蔵野プレイス鉄道探検隊」などがある。他にも近隣の大学との連携事業もある。

**【委員】**

10代の利用者が全体の36.6%となっているが、小・中・高校生別といったデータはあるのか。

**【プレイス副館長】**

そこまではデータを取っていない。

**【委員】**

この委員会で、小学生は図書館に来るが、中・高と年齢が上がるにつれて図書館から離れていくという話があった。プレイスにはスタジオもあるし、中高生を図書館に呼び込める工夫がある。これは、他の図書館の参考にもなるのではないか。その際に、根拠となる数字があればよいと思った。

**【プレイス副館長】**

ご覧のとおり、地下2階には中高生が大勢来ていることは、ひとつの誇れる成果でもある。17時より前の時間帯では小学生たちも利用しており、他ではあまり例がない、かなり特徴的なスペースとなっている。

**【委員】**

地下2階を見学した際に図書展示があり、中高生を読書に誘導できないかという意図でちょっと面白い本を並べていると聞いた。あの年代は悩みがあっても人に相談するのが恥ずかしいので、気になるタイトルの本があれば手にとったり、人知れず方向性を得たりしようとするだろう。そういう場を図書館に設けることは、とても良いアイデアと思い感心した。

**【プレイス副館長】**

地下2階は、いつ来てもいいし来なくてもいい、出入り自由な場としている。スタッフは常駐しているが「寄り添う」という関わり方を大切にしている。その雰囲気が受け入れられているのだと思う。

**【事務局】**

他に質問がなければ、この項目はここまでとしたい。

本委員会は傍聴基準に基づき公開しており、今回は3名の傍聴希望者がある。

次に資料を確認する。資料が不足している場合は申し出ていただきたい。

このあとは議事となるので、委員長に進行をお願いする。

**【委員長】**

承知した。

まずは事務局から、議事録について説明を。

**★議事（１） 前回議事録の確認について**

**【図書館長】**

資料1をお願いしたい。

事前を送付しているが、前回委員会の議論を取りまとめた。この内容で確認・承認をいただければ、終了後に公開したい。

**【委員】**

3ページに個人名が出ているのは、消した方がよいのでは。

**【図書館長】**

削除したい。

**【委員】**

P3の上から2段目、「思ったのである」とあるが、「思ったからである」にしていただきたい。

**【事務局】**

先ほど委員長からご指摘があり、5ページの上から7行目に「武蔵野立図書館」とあるが、「立」の前に「市」を入れる。

**【委員長】**

さらに何かあったら意見、質問を。

（意見なし）

次の議題に移る。事務局より説明を。

**★議事（２） 計画構成案について（資料２）**

**【図書館長】**

図書館基本計画の構成（目次）案として資料2を作成した。

・第1章「計画の位置づけ」

計画の経緯や背景などである。なお、計画の期間は10年を想定する。

・第2章「武蔵野市立図書館を巡る現状と課題」

図書館に関する全国の動向と武蔵野市の動向、武蔵野市立図書館の状況などについてまとめ

る。既にお渡ししている分厚い資料（※1）から抜粋してまとめていくことを考えている。

※1 「図書館基本計画策定委員会参考資料（基礎調査報告書からの抜粋）」

・第3章「基本理念と施策体系」

この計画の肝となる部分である。基本理念については、本日この後の検討やシンポジウムなどで固めていければと考えている。具体的には「基本理念」「基本方針」があり、その後の「重点取組」については、これまでの議論で触れてきたテーマを記載した。ご意見をいただければと思っている。

・第4章「施設整備のあり方」

市の公共施設等総合管理計画では、個別計画を持つ施設類型では、その計画の中に施設整備方針を入れることになっている。それに対応した項目である。

・第5章「実施計画」

ボリュームとしては一番多くなると思われる。基本理念や重点取組などを踏まえ、具体的な取組や事業を記載する部分となる。

・第6章「事業の推進体制」

図書館運営のチェック体制としては既に図書館運営委員会があるが、そのさらなる充実等について触れていくことになるかと思われる。

**【委員長】**

この構成案について質疑を行う。何かあったら意見を。

**【委員】**

構成はこんな感じと思う。ただ、実際の記述内容については、難しい点が多くあるだろう。例えば、図書館の首長部局への移管は国の非常に大きな政策転換であるが、これを「国の政策」の項目でどのように扱い記述するのか。また、武蔵野プレイス自体が全国的な先進事例であるなかで「全国図書館の先進事例」にはどこを選ぶのか、いわゆる TSUTAYA 図書館に触れるか否か。武蔵野市は先進的と位置づけられている自治体だけに、実は前段の部分こそ、市の見識が問われるだろう。

3章の「理念実現のための重点取組」については、いまの構成（案）の内容でまとめられれば、かなり画期的なものになると思う。各項目とも大事だが、私としては「(9) 知る権利の確保」を重視したい。

昨今の首長部局移管の話には図書館もまちづくりや観光に役立たせる方向性が見えるし、プレイスがあることで、武蔵野市に相当に外部の人を運んできているのは事実。しかし、それらは副次的効果に過ぎない。武蔵野市はただ数を追い求めているわけではなく、住民に知の拠点

を提供しているということをきちんと謳うほうが良い。

そういう意味では、今日提案があったこの内容で上手く出来上がると、かなりインパクトがある、地域の図書館行政に対して1つの模範を示すことができる計画書になるのではないかと思う。

**【委員長】**

確かに「知る権利の確保」は重要である。他に意見はあるか。

**【委員】**

第2章の「図書館に関する全国動向」に、“図書館システムの動向”を入れるのはどうか。この委員会で、昨今では図書館システムに大きい経費がかかっているという話を聞いた。それだけお金が動く部分であるなら、システムを運用していく側としても変遷や動向をしっかりと把握し、どのようにしていきたいか、どうなると便利か、という発想を持って取り組むことが大事ではないかと思う。

**【委員長】**

それは電算システムのことか。

**【委員】**

私はシステムについては素人であるが、例えばOPACについて少し調べたところ、最初は書名や著者名を細かく入力する必要があったものが、キーワードでヒットするようになり、表紙の画像を入れる、本文中の文章の検索などまで検索できるようにするなど、進化してきている。

以前の委員会でスマートフォンを用いた貸出システムなどが話題に出たが、システムを運用する側として、自分たちで知識を蓄積し把握していくことも大切ではと思う。

**【委員】**

「理念実現のための重点取組」に「(8) 団塊世代、団塊ジュニアなど大きな塊の今後のニーズについて」とあるが、人生100年時代が話題となり、2007年に生まれた子は半分以上107歳まで生きると言われている。こういった「リタイア後も新たな学びをしていく時代」において、図書館に求められる取り組みはどのようなものであろうか。

また、現在も学校への支援は行なっているが、「重点取組」に「子ども」が出てきていない。新しい指導要領においても「主体的・対話的で深い学び」とあるように、今後は、能動的、主体的に学習に取り組み、対話を通じて深めていくといった手法がさらに推進されると思われる。子どもたちがもっと学んでみたい、もっと知りたいという時に、図書館も何か支援できないだろうか。

この2点は、重点取組に取り上げるか、あるいは実施計画の中で触れるのかは別として、視点として必要かと思う。

**【委員長】**

確かに「子ども」に触れていない点は検討する方がよいだろう。他に意見は。

**【委員】**

「理念実現のための重点取組」の(8)は、ここだけ「団塊世代、団塊ジュニア」と具体的で、少し気になる。“子どもたちも”というような表現があってもいい。検討の余地がある項目だと思う。

**【委員】**

「年代別のセグメンテーション」など、より一般的な表現のほうがいいのかと思う。

**【委員】**

「(1) 地域課題解決支援」であるが、言葉の使い方として、「課題」ではなく「問題」を解決するという表現のほうが一般的だろうと感じる。「課題」とするなら、課題を見つけてそれを問題だと位置づけて、解決していくという流れでは。その流れを省略するところなのか、あるいは行政で使っている用語なのでそれに合わせる方がよいのか。もう一度表現を含めて考えたほうがいいのか。

**【委員】**

今のお話はとても重要だと思う。課題解決サービスのひとつの課題は、課題を発見せずに「課題解決」と言ってしまうところにある。

課題を「発見する努力」と「解決する努力」、この二つは常に対になるが、双方が必要であると主張することは非常に重要である。これが定まっていないので、「とりあえずウチもビジネス支援をやっとくか」、「ウチも法律情報をやってみよう」など、メニュー選びのようになってしまっている現状がある。武蔵野市だからこそ一段高い見識を示す必要があるだろう。

**【委員長】**

第1章「計画の位置づけ」の2に「本市上位計画・関連計画との関係」があり、第2章の「2. 武蔵野市の動向」の2項目めに「上位計画・関連計画の動向」とあるが、これは重複しないか。

**【図書館長】**

第1章は大きなイメージ図で、第2章ではそれぞれの計画の具体的な部分を提示する形を想定している。

**【事務局】**

第1章の方は、現行計画のP2「計画の位置づけ」にあるような、関連計画との位置関係をイメージ図で示す形になるかと思う。第2章は、市の長期計画や生涯学習計画など、図書館基本計画と関連が大きい計画の動向についてまとめていくことを想定している。いずれにしても、いま申し上げたとおり、記載内容が重複しないように調整したい。

【委員長】

それなら問題ない。

構成案については、これまで出た意見を踏まえて、この形で進めることでよろしいか。

(意見なし)

では、これで進めることとする。次の議題に移る。事務局より説明を。

★議事（3） 計画の将来像、基本方針について（資料3）

【図書館長】

資料3「計画の将来像・基本方針」について。

これまでの議論を踏まえ、計画に掲げる「基本理念」「基本方針」について、事務局としての案を作成してみた。事務局の中でも議論が十分には煮詰まっていないところもあるが、本日の検討のたたき台にさせていただければと思っている。

●基本理念（案）

- ・AB の2案を作成した。いずれも、前回の委員会で提案があった「人と情報をつなぎ、育む」から、「育む」「つなぐ」という言葉をいただいている。
- ・AB案とも、「知」の代わりに「情報」を使うことも考えた。しかし、「情報」という言葉には断片的なもの、データのなものというニュアンスがあるため誤解を招く可能性があり、「知」に置き換えた。ただ、若干、唐突な印象があるか、とも思っている。
- ・A案では、この「知」にプラスして「地域課題の解決」を重視する視点から、理念に「地域」という言葉を入れている。全体としては、体系的に知を学んで、それを活かして地域課題の解決や地域文化の育成につなぐというイメージである。
- ・B案は、A案の「知」に加えて「心」を入れ、代わりに「地域」は、説明文には入っているが、キャッチフレーズ的な部分には入れていない。これは、「知」だけでは学習的な意味合いが強くなりすぎるため、「心」を入れることで読書の楽しみ、感動の部分を出そうとしたものである。

●基本目標（案）

- ・図書館の本来業務と言われている領域を「基本方針1」、地域連携や他の領域との協働等に関する部分を「基本方針2」として作成した。
- ・基本方針1の①は前回の基本計画の「将来像」の①、②は同じく前回計画②の表現を変えたものである。①の具体例の1番目は、読書動機付け50周年などに関する議論に対応した児童対応の強化、2番目と3番目は、前回までの委員会での複本問題に関する議論で出ていた内容、4番目は同じく委員会で地域文庫やムーブスの利用などについて出たご意見を反映している。
- ・②については、生涯学習支援につながる内容だが、それだけでなく「図書館に来る楽しみ」「知る楽しみ」という観点を加えた。
- ・③については、デジタルについて触れるべきという前回委員会でのご意見を踏まえたものと

なっている。

- ・基本方針2の①は前回基本計画の将来像の③を、②は同じく④を、変更したもので、3館それぞれで地域との連携を行っていくという形にした。

いずれもひとつの案ということで提示したもので、ご議論をお願いしたい。

**【委員長】**

質疑を行う。何かあったら意見を。

**【図書館長】**

よろしければ、意見をホワイトボードに書いて可視化する手法はどうか。

**【委員長】**

そのようにしてよい。

**【委員】**

「基本理念」のA案・B案では、私は圧倒的にA案だと思う。

B案にある「心を育む」は、行政、特に社会教育や生涯学習行政が言うのは避けたほうが良い言葉ではないか。「心」とは本来内面の自由という部分なので、権力や行政が踏み込む分野ではないと思う。A案のテキストの中にある「人の心を育てる」程度は良いと思うが、大きな標目として書くことではない。

きちんと知を育て自分で知識を獲得していく力を持った子どもたちや地域の人たちであれば、当然ながら心は育まれるはずで、何もそこをあえて図式化する必要はないと思う。

**【委員】**

私もB案には少し違和感を持った。どちらかと言えばA案がよいと思う。基本理念の下にくる基本方針の内容を見ると、基本理念がA案である方がよく理解できる。

**【委員】**

私は、図書館というのは個人が利用する場と捉えているので、文言に問題はあるかもしれないが、B案のほうが、個人で図書館に参加して、その中で個人が高まっていくという意味でわかりやすい。A案は漠然としすぎていて図書館が一般論になってしまう。

A案にある「地域」という言葉が、非常に曖昧かつ抽象的でよくわからない。エリアを指しているのか、武蔵野市のことを言っているのか。図書館を個人との接点で考えるのかパブリックなものとするのか、A案とB案には大きな違いがある。

そのため、先ほどの意見とは逆に、B案をベースに文言を変えていく方が、図書館と市民とのつながりを身近に考えられるのではないかと思う。

**【委員】**

確かに、A案における「地域」は一般の生活者感覚からすると大きすぎるので、「まち」ないしは「コミュニティ」と言い換えるのはどうか。武蔵野市のコミセン文化を考えた時にじっくりくるのではと思うが。

先ほどのご発言はすごく重要で、図書館というものを何を軸に考えるかといえば、やはり個人の利用だと思う。特に未成年を考えた時、保護者の思想信条に関係なく、誰もが自由に利用できる場という意味で、個人に根差すことは重要であろう。

ただ同時に、このプレイスが正にそうだが、ここに一人ひとりの個人が足を踏み入れることによって様々なコミュニティ活動が織りなされているというのも、やはり図書館の非常に大きな魅力だと思う。

このように、個が尊重されつつコミュニティ形成の一助にもなるということ、また地域における言葉の浸透度合いを考えると、「人とコミュニティを知で育む」というのが、結構すんなりくる表現かなと思う。

**【委員】**

「地域」は、英語にすると“Area”であったり“City”であったりする。「コミュニティ」なら、地域に人が関わっている印象があるので、「地域」よりは違和感が少ない。ただ、横文字が良いかどうかは検討の余地があると思われるが。

**【委員】**

「コミュニティ」は、言葉として定着していると思う。

**【委員長】**

あと、「知」という言葉については、プレイスも「知の創造の拠点」としているが、どうなのだろうか。

**【委員】**

10年、15年前に「知」という言葉が流行って、プレイス検討の頃にもいろいろと考えられた経過はあった。

基本理念については、「知で育む」だけが図書館の役割ではないだろうと思うし、加えて、「人と地域を知で育む」というのは、なんだか上から目線的な言い方ではないかを感じる。図書館はもっと、知る権利の保障など、保障したり支えたりするものではないだろうか。その意味では、こういう図書館を目指しますよという、もう少し普通の言葉でもいいのかなと思う。もちろん1行で適切な文章があればいいのだが、個人的には、いい言葉が見つからないなら、必ずしも格好いい標語を作らなくてもいいのではないかとも思う。

**【委員】**

「人と地域」の部分は、「コミュニティ」に変えると一語で表せるのではないか。

**【委員】**

武蔵野市で「コミュニティ」という言葉は、誰もがよく知っているだけに直接的な印象がある。「コミュニティを知で育む」と言われたら、「我々が自立した団体でやってるのに」「なんで我々の“知”に影響を及ぼそうとするか」というイメージも抱かれかねないと、ちょっと思った。

#### 【委員】

プレイスは平仮名で「ひと・まち・情報 創造館」とあり、文字のやさしさを感じるが、「知」という言葉は何か違う。基本方針にある「読む楽しみ」「知る楽しみ」は「知」という言葉では伝わり難い印象がある。

それと、「地域の課題解決～」とあるが、これは具体的には何だろう？

#### 【委員】

武蔵野市ならではの課題なのか、高齢化など日本社会全体が抱える課題なのか。全国どこも同じような課題を抱えているが、武蔵野市だけの課題というものはあるのだろうか。課題と言われて何をイメージするか、具体的にピンとこない。枕詞としてはいいのかもしれないが、目標にするには曖昧すぎる。

#### 【委員】

プレイスには市民活動を支援する機能がある。市民活動団体は地域の情報をたくさん持っているので、そことの連携はどうなっているのか聞くと、図書館は図書館、市民活動は市民活動、それぞれでやっていると回答をいただく。そこは上手く活用できていない部分かなと思う。市民活動団体が今どんなことに興味があるのか、ずっと継続している活動とは何なのかなど、地域の課題を発見できるポイントがたくさんありそうに思われる。

基本計画の検討にあたって知りたいのだが、市民活動団体との連携は実際に行えるものなのか、やはり事業的には別々に切り分けてやっていくことになるのか。そのあたりはいかがか。

#### 【図書館長】

私もプレイスに勤務していたので、今のご指摘についてはまさに、ずっと気にかかってきた点である。市民活動の方々が抱える課題は専門家につないでいくような内容が多いため、市民活動の窓口に行っていて、図書館にはあまり相談していないのではという気がしている。

連携事業の内容としては、本の展示や、イベントに合わせて何か図書館でもちょっとした事業をする等が中心で、さらに一歩進んだ連携にはなかなか進みにくい。ただ、では図書館がそこまで専門的なことをレファレンスとして応えられるか？と考えると、市民活動の専門家に対応いただく方が役に立つのではないかとも思う。

図書館がどういった形で関わればそういった市民活動で困っている人の力になれるかということは、常に考えている。例えば、レファレンスというものがあってちょっとしたことでも調べることができます、という情報を伝えることなどは、もう少しできるのではないかと思う。そこからスタートし、何か質問すればきちんと答えてくれるということが広く認識されれば、もう少し使っていただけるのではないだろうか。

青少年もそうだが、プレイスには資源がたくさんあるので、もっと進んだ連携をしていくことが必要と認識している。まず使っていただくことが第一歩だと思う。

**【委員】**

市民活動で解決できるなら、図書館は地域の課題解決として何をすればいいのか？というところに話は戻ってしまう。

「市民活動でできているなら、図書館として掲げなくてもいいのでは？」なのか、「やはりできることを探していこう」という方針でいくのか、整理が必要では。

**【図書館長】**

図書館の職員が市民活動の相談のことを知ることも必要であろうし、その逆も必要かと思う。

**【委員】**

その通りである。

**【図書館長】**

レファレンスは中央図書館でも受けており、その中でもテレビや雑誌の仕事をされている方がお祭りのことなどを調べに来た時に、ある程度の資料を提供できていると自負はしている。そういうことを知っていただく機会をもっと増やせないかと思っている。

**【委員】**

そういう意味でも、図書館がメディアになるというところまで踏み込めないものかと思う。

**【図書館長】**

そうなるとマンパワーの問題も出てくる。

**【委員】**

そこは理解するが、デジタルを活用するのであれば、そういった発信は打ち出せる部分ではないか。課題解決に向けてうまくつなぐ、解決に向けて図書館内での連携をもう少し実現するなどは一歩だと思う。

「もう一歩先の図書館になろう」という思いが、計画の中にもう少し出せるといい。

**【委員長】**

私は、先ほど意見が出た「知る権利の保障」というのが、結局は、図書館の今も変わらぬ一番大事なことだと思っている。もしその言葉を柔らかく言えたとしたら素晴らしいのだが、何かいい言葉はないだろうか。

**【委員】**

ちょっと別の観点となるが、上から目線という部分に関して言えば、「育む」という言葉がまずいのだろう。あくまで図書館の計画と考えると、基本は「助ける」ということだと思う。「人

とコミュニティを知で助ける」などのほうが、実態にはより近い気はする。

**【委員】**

「支える」のほうが良い。図書館はまさにサポートするところ。

**【委員】**

「知で支える」というのは良いと思う。図書館もその地域になくってはならないインフラであるというニュアンスが滲み出てくる気がする。これがなければコミュニティじゃない、ぐらいの印象を持たせて良いのではないかと思った。

**【委員】**

「人とまちを知で支える」という感じだろうか。

**【委員長】**

他に意見はあるか。

**【委員】**

ITに詳しい委員に聞きたいのだが、最近“マルチメディア”という用語をあまり聞かなくなったが、やはりITが出てきた影響か。

**【委員】**

2000年代初頭にIT革命が起きたが、インターネットが従来のメディアに比して破壊的だと言われたのは、それまでは紙、CD、DVDなど様々なメディアで提供されていた新聞、音楽などのコンテンツの全てがネット上に乗せられるためである。新聞も、いまや紙より配信記事で読んでいる人のほうが多いのではないか。配信サービスに入っていれば、映画やテレビ番組もほとんどネットで見ることができる。少なくとも子どもたちは、テレビ番組を見逃しても後でネットで見ればいいと、思考様式が変化している。

様々なメディア（マルチメディア）は情報発信の形態だが、情報を配信する仕組みそのものがインターネットにほぼ一元化された。ある意味決着がついたと言える。しかし、紙の本は電子化しにくいので、その中でも意外に残るのではと思っている。これは、まさに図書館が存続する理由でもある。

その意味で、本日提案された「基本目標」は、結構バランスが取れていると思う。以前にも申し上げたが、デジタルを敵視する方向に行くのは図書館としては完全に自殺行為で、むしろ徹底してデジタルを活用していく図書館像を打ち出したほうが絶対に良い。デジタルの力を取り入れて活かすという考え方が入っているのは、他の多くの公共図書館が掲げている目標のレベルからすると、かなり革新的というか、ひとつ上を見ている気はする。

**【委員長】**

他に意見はあるか。

**【委員】**

基本方針1「図書館の力を高める」の“力”は、感じはわかるが、図書館にふさわしいのか。もう少し良い言葉はないか。

**【委員】**

私は良いと思う。これは図書館サイドで考えた言葉か。今までになかった言葉だが、図書館の皆さんがそう思っているのであれば素敵だと思う。

**【委員】**

これ自体はすごくわかりやすいと思う。全部日本語というのは良い。

**【委員】**

力強いと感じる。

**【委員長】**

図書館ならではの機能を高めるという意味だと思うが。

**【委員】**

「機能」という言葉を使わないのが良い。

**【委員】**

「図書館の力を高める」という言葉だけでは、「誰のために」「何のために」が見えてこないようにも思う。

**【委員】**

小項目にある「すべての人が～」が、その“誰か”を示していると思う。

私も「力を高める」はすごく良いと思っている。最近のトレンドとして、自分の力を高めないうで様々なものと連携して頑張るといふのが多い。しかし、自分の力を高めていないのに連携してくれと言われても相手にされない。これが多くの公共図書館の現実である。

「力を高める」、これはかなりの宣言なので、市民から見ても強い安心感や信頼感に繋がる。図書館側からすれば、これから10年間これを背負うことになるので大変かもしれないが、とても良い言葉だと思う。

**【委員】**

基本方針1の①の具体的な項目として、「小さな頃からの読書習慣の確立」「～幅広い市民への図書の多様な楽しみの伝達」などがある。これらは、先の「重点取組」に入っていないか、よいか。

**【委員】**

「重点取組」は、まだ行っていないがやるべき事項を挙げるリストと認識している。一方で、基本方針1の中には、すでに行っていることも入っている。計画書の構成としては、基本方針の次に重点取組が来るので、それほど対応を気にする必要はないようにも思う。

**【委員】**

やはり、重点取組(8)で「団塊世代～」と書くことで世代が狭められてしまっているので、ここに「小さな頃から…」など、成人も含めた幅広い世代に対する考え方を示す方がよいのではないだろうか。

**【委員】**

「重点取組」の順番は、変わってもいいのかもしれない。

**【委員】**

確かに、最初の(1)に突然「地域課題解決」とあるので、「課題って何だろう？」と悩むことにもつながる。

**【委員】**

基本方針2の①「地域住民の課題解決～」の部分だが、ここに、この委員会で議論してきた課題の“発見”と“解決”に関する論議を反映することはできないか。

**【委員】**

本日の落としどころとして、いまここで全部決定する方がよいのか。それとも、一度事務局に返すほうがよいのか。

せっかくここまでのものがあれば、基本計画はまさに市民への誓約なので、市役所や事業団でもう一度もんでもらって、次の委員会で最終的に落とし込むほうが良いかなという気がする。

普通、市役所側はもっと丸めた感じの案を出してくることが多く、これだけのものを出してくることはあまりない。今ここで一気に決めなくてもいいかなと思う。

**【委員長】**

今の意見について、何か。

**【図書館長】**

今回はシンポジウムなので、シンポジウムでの議論や意見交換なども含めて検討し、時間をいただいて提出する形ではいかがだろうか。

**【委員長】**

それでよろしいか。

(意見なし)

それではそのようにしたいと思う。

**【委員】**

スケジュール的にはそれで問題ないか。

**【図書館長】**

その後は少し時間的に急ぐことになると思われる。10月、11月の2回で、基本計画の中身、つまり細かい施策、事業の書き込みなどについても併せて提出することになるかと思う。

**【委員】**

秋口は急ピッチになるかもしれないが、せっかくシンポジウムを開催するので、委員に全て投げて決めているわけではなく、委員側も考えるし、図書館、市役所・教育委員会・事業団もすごく考えて、キャッチボールがあって現状はこうなっているというありのままを出すと、市民の皆さんにも刺さるのではないかと思う。9月のシンポジウムを形だけのものにしないためにも、ここは一度引き取ってもらうのが良いのではないだろうか。

**【委員】**

いつも委員会に出ていて、図書館の方の意見がなかなか聞こえてこない。発言する立場ではないということかもしれないが、もっともっと図書館側の意見や考え方を聞きたいと毎回思いながら帰っている。そういった意見のキャッチボールができるようになるといいと思う。

**【図書館長】**

おそらく、次は見ていただく資料のボリュームが増えるので、次々回の10月の委員会では、できれば委員会の10日前にはお送りしたいと考える。場合によってはメール等でやり取りした上で委員会に戻すなど、少し工夫させていただければと思う。

先ほどご指摘があった、構成案の第1章や第2章の現状と課題、どの事例を取り上げるかなども重要になってくる。もし可能なら、どういった事例を取り上げればよいか等、ご意見を伺えればありがたい。

**【委員】**

先進事例としては、外見に惑わされることはないと思う。それより、武蔵野市のように、これだけ財源に恵まれ、語弊があるかもしれないが地域の知識程度も高い自治体の取組みを意識するほうがよいであろう。地方都市には地域に根差した良い図書館があるし、武蔵野市としても学べるケースはまだまだあるとも思うので、なるべくそういう所を見たほうがよい。表面的な、人がたくさん来ているかどうかの問題では全くない。

**【委員長】**

次の議題に移る。

事務局から説明を。

#### ★議事（４） 将来像を実現するための管理運営形態について

##### 【図書館長】

第3回委員会での資料を参考にご意見をいただきたい。先ほど議論していただいた基本理念や基本方針を実現するための運営形態について、ご見解があればお願いしたい。

##### 【委員】

吉祥寺図書館が、この4月から事業団による指定管理に移行した。これで、市立図書館3館のうち2館が指定管理となったが、残る中央図書館をどうするべきか。武蔵野市では、かつて司書資格有資格者を前提とした職員採用を行ったが、昭和62年以降はそういった採用は行っていない。今後は司書に限らず専門職の採用をしないというのが市の方針なので、市の直営で今後図書館業務が維持できるのか、また、そのほうが望ましいのか否か。

もし3館とも指定管理になると市に図書館運営のノウハウが残らない。一方で、運営する職員の資質などを考えれば事業団が運営するほうが望ましいかもしれない。市としても方針は決まっておらず、どういう形がよいのか課題である。

##### 【委員】

これはかなり難しい問題である。

##### 【委員】

図書館利用者からすると、中央図書館でもプレイスでも、サービスにそれほど差異はない。中央図書館に不満はないし、一方で、今後専門職が採用されないのでサービスレベルを維持できないというのであれば、解決策としてプレイスや吉祥寺図書館のような運営のあり方に切り替えていくのもひとつの方策であろう。

運営は大事な課題だと思うので、無責任なことは言えない。自分は今のままで満足している。中央図書館もプレイスのように変えて欲しいとはあまり思っていない。

##### 【委員】

確かに、この場で30分議論してどちらが良いと決めるような話でもないと思う。実際には、市を挙げて今後もじっくりと議論していく課題と思うが、今のようなご意見があれば伺いたい。

##### 【委員】

いま大事なのは、運営・経営の枠組についてきちんと考えるための制度や組織を整えていくことだと思う。中央図書館を指定管理にすると、おそらくかなり揉めるだろう。自治体側にノウハウの蓄積が無くなることを受け入れていいのか、指定管理者制度自体の永続的が疑わしい中で将来的な自治体のサービス低下を招く可能性はないのか。実際に、指定管理者制度の導入から10年以上経過し、自治体によっては図書館運営能力が無くなってしまっているとこ

るも多くある。これは、長期的な市民利益という観点からどう考えるべきなのか、短期的にはどうなのか。きちんと分析をしなくてはならない。市民運営に切り替えようという議論も幾つか出てきている。

現時点で武蔵野市は上手くいっていると思うが、指定管理者制度における武蔵野市の最大のリスクは、非公募から公募にすべきといった議論が高まり、指定管理者が事業団から他の事業者に移行してしまうことにあるのではないかと。

一方で、非公募で継続的に指定管理が約束されていると、ガバナンス上の問題が発生することもある。そのチェック体制をどうしていくか。事業団へのチェック&バランスを果たす機能を、行政と市民がどのように果たしていくか、きちんと調査研究を進めて答えを出していくことも大事だと思う。

アメリカでは図書館委員会を組織し、そこに市民も入って管轄するという仕組みもある。それがベストだとは思わないが、恐らく将来的に指定管理者制度では回りきらない時代が来るので、その時にもう一度行政の運営組織としての改善が求められると思う。そういうことに備えていく、という内容としておくのがよいのではないかと。

#### 【委員】

指定管理という制度を利用してはいるが、非公募で市の職員も事業団に多く派遣されている。市と事業団の連携もしやすく、実際の運営としては上手くいっている面も多い。最近なら武蔵野市給食・食育振興財団のように、民間事業者に委託するのは不安がある、でも市直営のままでは職員もおらず続けられないという場合に、市議会での議論も経て、市の財政援助出資団体を設立する例は他にもある。

指定管理者制度は本来は競争して事業者を決定する制度なので、毎年、事業団に対しては競争意識を持つべきという指導がなされている。いまずぐどうこうということはないと思うが、今後長い目で見た時、確かに、いまご指摘があったような事態が絶対に起きないとは言えないだろう。

#### 【委員】

ある意味で良いとこ取りだが、逆にひっくり返ったら大変だろう。

#### 【委員】

一部の特区では運営を地方独立行政法人化させており、国の制度も恐らくもう少し変わってくるだろう。

そして、何と云ってもまずいのは、賃金さがり過ぎていること。最近、人が雇えないから機械に代替させたいという意図での図書館 ICT 化に関する相談を受けることもある。ここまで来たかという相談も多い。賃金の下がりすぎは、今後、国としても大きな課題になるので、見直しがかかってくるだろう。それに先行して、将来的に武蔵野モデルと言えるものを提示するくらいの姿勢を示すのが良いのではないだろうか。

#### 【委員長】

将来像を実現するための管理運営形態については、短時間では検討が難しい課題であるし、具体的な内容というよりも、将来を見据えてじっくり検討すべき、という形にするのはどうだろうか。

(意見なし)

では、そういう形で進めることとする。次の議題に移る。事務局より説明を。

#### ★議事（５） シンポジウムについて（資料４）

##### 【図書館長】

資料４をご覧いただきたい。既にご案内しているものだが、本日、正式に内容を固めていただければと思っている。シンポジウムの名称として、現在は「10年後の図書館を考える」と無難な題名案としているが、これもご確認いただきたい。

##### 【委員長】

質疑を行う。何かあったら意見を。

##### 【委員】

基本計画策定委員は、委員の役割としてシンポジウムを傍聴するという認識でよいか。

##### 【事務局】

仰せの通りである。委員会の中の1回として委員の立場でご出席いただくので、席を準備する。

##### 【委員】

より多くの市民の方の目をひくよう、名称について委員の皆さんのお知恵を借りたい。

##### 【委員】

「これからの図書館」、「図書館の未来像」などはどうだろう。

あるいは、あえて10年と入れないで「支える図書館」など。

##### 【委員】

せっかくの広報機会なので、「仮」であっても、先ほど議論した基本理念のキャッチフレーズを載せるのはどうか。この先10年はこの考え方で行くということなので、最初からアピールする方がよいのでは。

##### 【図書館長】

基調講演とパネルディスカッションのテーマについてもご意見をうかがいたい。事務局としては、本日も議論いただいたような基本方針や基本理念を中心に、望まれる図書館の姿、期待すること、図書館職員に求めたいものなどについて話を膨らませていく形かと思っているが。

**【委員】**

基調講演を受けてパネルディスカッションで話を膨らませるなど、内容的には繋がっているが、タイトルは違うというのはよいのか。

**【図書館長】**

基調講演のタイトルは講演者のご意見を入れて、パネルディスカッションのテーマも、委員の皆様のご意見で変えていってよいと思う。

**【委員】**

基調講演では、外部から見ての武蔵野の図書館の現状と、現在、基本計画策定委員会で議論している内容まで触れるつもりである。

市民は自分が住んでいるまちの図書館しか知らない。武蔵野市民はこれが当たり前だと思っているが、小さな市域の市に図書館が3つもあることは奇跡的である。武蔵野市は横浜市の1区よりも市域が狭いが、横浜市1区には1館しかない。そういったことを踏まえて、話をしていきたいと考えている。

**【図書館長】**

シンポジウム全体のタイトルについては、先ほどの基本理念の検討において出されたフレーズである「人とまちを知で支える図書館」でよろしいか。

**【委員】**

(仮) とつけなくてよいか。

**【図書館長】**

副題に「武蔵野市」や「図書館基本計画改定」などは入れるかどうか。

**【委員】**

「図書館シンポジウム」でよいのでは。計画のためというより、図書館についてのシンポジウムだということ。

「知で支える」だと、ちょっとイメージが湧きにくいかもしれない。それよりも、これからの未来像、図書館に何を期待するか、といったことがわかるようなフレーズの方がよいのではないか。

**【図書館長】**

タイトルが「人とまちを知で支える」で、副題に「10年後の図書館を考えるシンポジウム」ではどうか。

**【委員】**

「10年後どんな図書館に行きたいですか？」

**【図書館長】**

「みんなで考える10年後の図書館」

**【委員】**

それぐらい柔らかい表現のほうがいいかもしれない。

**【委員】**

プレイスや吉祥寺図書館が柔らかい言葉をキャッチフレーズにしているなかで、「考える」という言葉は固すぎるのでは。「皆さんどういう図書館に通いたいですか？」ぐらいの方がよい。

**【委員】**

「10年後を考えませんか」など、ボールを投げ掛ける感じで疑問形にしたほうが、行ってみたいと思うのではないだろうか。

**【委員】**

「武蔵野図書館フォーラム～みんなで考える10年後の図書館」とか「みんなで考えませんか」という形がよいのでは。

今回のシンポジウムには、できるだけたくさんの市民に来ていただきたい。2年前の武蔵野プレイスの記念シンポジウムは明らかに市外の人が多かった。もちろん、日常的にプレイスを利用している市外の方もいるし、図書館関係者はそういうシンポジウムによく出席するが、今回はそういう人たちではなく、周辺市の住民も含めて武蔵野市立図書館の利害関係者に来てほしい。話の流れとして、市外利用者に対する一部サービス制約といった突っ込んだ議論も出るだろう。そういったことを一緒に考えてほしい。

周辺市の人も、武蔵野市だけをあてにするのではなく、自分の住んでいる自治体に対してきちんと働きかけてもいい。各市がそれぞれ豊かな図書館環境を整備していたら、相互利用の話もこんなにややこしくはならない。

そういう意味で、「シンポジウム」より「フォーラム」という言葉のほうが良いだろうか。シンポジウムだと先生たちがお話をされる場という雰囲気があるので、自由に語り合うイメージで。

**【委員】**

それならなおさら、ハードルを下げて語りかけるようなタイトルにしないと、一般の人に響きにくい。

**【委員】**

10年後に図書館を使う人と考えると、本当は若者にも参加してほしい。幅広くなってしまうのかもしれないが。

**【委員】**

地下2階を使っているような子どもたちにも、ぜひ来てほしい。10年後だとまだ大学生でここに住んでいるかもしれないし、ここを離れているけれど故郷と見なす立場になっているかもしれない。やはりそういう子たちが身近に感じてくれるかどうかだ。

**【委員長】**

言葉は「フォーラム」でよいか。

シンポジウムが終わった後には市民の質問を受けるのか。

**【図書館長】**

質問を受ける時間は十分に取りたいと考えている。

では、「図書館フォーラム～みんなで考えませんか、10年後の図書館」ではどうだろうか。

**【委員長】**

かなり表現が柔らかく、呼びかける雰囲気になってきたと思う。

**【委員長】**

基調講演のタイトルはどうするか。

**【委員】**

あまりあれこれタイトルをつけてもわかりにくいので、基調講演も討論もこのテーマでいくのはどうか。基調講演では、このテーマからなるべく離れないよう、他の地域との比較なども含めて武蔵野市の現状を理解していただけるよう心掛ける。

**【委員長】**

次に「その他」に移る。

**★3 その他**

**【事務局】**

次回は図書館フォーラムで、9月8日（土）14:00～16:30、会場は武蔵野プレイス 4F のフォーラム（会議室）となる。13:30 開場なので、その時間にはお越しいただきたい。

その次は、10月2日、11月13日、それぞれ17時半～でお願いしたい。

12月に予定されている中間のまとめに向けて、本日ご検討いただいた基本理念などを踏まえて、本日の資料2「計画構成（案）」に肉付けしていくイメージで本文の作成を進めて、10月2日にはある程度のものをお示しできればと思う。ここからはスケジュールが若干きつくなってしまうことをご了承いただければありがたい。

場合によっては、資料を順次メールなどでお送りして事前に意見をキャッチボールするなど、時間の節約を図らせていただくこともあるかもしれない。ご協力をお願いしたい。

**【委員長】**

最後に全体を通じて何か意見や質問等があれば。

**【委員】**

以前、「フォーラムに市長の参加を」という意見があったが、市長の参加はあるのか。

**【図書館長】**

残念ながら市長はその日にすでに先約が入っていた。竹内教育長はパネリストとして入る予定である。

**【委員長】**

その他、何かあるか。

(特になし)

以上で第5回図書館基本計画策定委員会を閉会する。